

第50回全国酪農青年女性酪農発表大会

全国酪農青年女性会議および全国酪農業協同組合連合会の共催による「第50回全国酪農青年女性酪農発表大会」が、全国から酪農生産者、関係機関など約250名が参加するなか、7月14・15日の2日間にわたり、東京都江東区「ホテルイースト21東京」で開催された。ここでは、酪農経営発表および酪農意見・体験発表の結果などを紹介する。

1. 趣旨

この大会は、全国各地域の酪農青年女性会議が推薦する酪農の優秀な経営の成果及び示唆に富む有益な意見・体験を発表し、それに基づく意見の交換を行い、酪農に対する思いの共有を図るとともに、わが国酪農業の安定的発展を目指して、生産性の高い豊かでゆとりのある酪農経営を確立し、国民経済の発展に資することを目的としている。

2. 結果概要

酪農経営発表の農林水産大臣賞には中野大樹さん（北海道酪農青年女性会議代表）が選ばれ、酪農意見・体験発表の最優秀賞には藤田幸子さん（関東甲信越酪農青年女性会議代表）が選ばれた。また、審査委員長特別賞は、酪農経営発表では、風間健太さん（九州酪農青年女性会議代表）、酪農意見・体験発表では、隈部雅子さん（九州酪農青年女性会議代表）が受賞した。

3. 酪農経営発表農林水産大臣賞 中野大樹さん

このたび、農林水産大臣賞を受賞したのは、中野牧場の中野大樹さん（北海道酪農青年女性会議）である。

○会社概要

会 社 名	株式会社中野牧場
所 在 地	河東郡鹿追町北鹿追北10線3番地55
設 立 年	平成21年（創業年：昭和21年）
社 員 数	計16名（役員3名、正社員12名、パート1名、実習生1名）
事 業 内 容	酪農業、よつ葉4.0牛乳生乳
総飼養頭数	757頭
経産牛頭数	425頭
出荷乳量	3,544トン 乳脂率4.29

今回の農林水産大臣賞受賞理由としては、「経産牛400頭という規模でありながら、高い反取によって自給飼料を中心とした経営を実現していること。また、1日8時間労働・週休2日で10名以上の雇用を導入しており、労働力あたりの経常所得が高

いこと。また、週休3日を提案するという考え方に経営者としての資質を感じられること。さらに、農場HACCP取得や新規就農者への支援活動について、発展性が大いに期待されること。」が挙げられた。

中野大樹さんは社長就任後、一緒に働く社員さんの大切さに気付くとともに、「自分一人では酪農経営はできない」と感じ、北海道中小企業同友会に入会した。そこでは、人のことや労使関係について学び、「一緒に働くパートナーを増やしたい」、「自分と同じ思いをもって仕事をしてもらいたい」と思い、以下のような経営理念を作った。

○経営理念

- ・中野牧場では「人のため、牛のため、自然のため」という経営理念のもと、社員全員が一丸となって学び日々酪農経営を営んでいます。
- ・命の大切さを牛たちのお世話から土作り、草づくりを自分たちの手で行うことで命の大切さ、共に働く仲間の大切さを学びます。
- ・酪農という仕事を通じて、人として成長していくことを大切にしています。

また、会社を部門ごとに分け、組織的な運用をしている。休日と労働時間も改革し、4週8休、1日8時間労働を実現するとともに、担当業務のジョブローテーションも実施している。さらに、農場HACCP認証による社員の連携強化や、粗飼料をメインにした土づくりに力を入れることにより、牛の健康維持にも繋げている。このほかに、人を生かす経営を掲げ、社員の長所を最大限生かせるように意識しているのも特徴である。また、MG研修（経営者育成研修）を受講し、近隣の経営者との交流も図っている。

「人のため、牛のため、自然のため、社員全員が一丸となって学び共に成長しあえる牧場へ」を強く意識し、日々の酪農経営に取り組まれている。

4. 全体を通じて（所感）

酪農の情勢が刻一刻と変化しているコロナ禍において、少しでもより良い酪農現場を目指す各者

の取組みには、とても感銘を受けた。それぞれの特徴に興味がそそられたのはもちろんであるが、皆さん全員が生き生きと発表していたことがとくに印象的であった。現在、酪農業界は厳しい状況

を迎えているが、このような時だからこそ、「人と人が手を取り、協力し合い、魅力ある酪農を通じて、日々を過ごしていければ」と感じる、素晴らしい機会になった。

第50回全国酪農青年女性酪農発表大会 受賞者一覧

酪農経営発表

区分	氏名	審査講評
農林水産大臣賞	中野大樹 (北海道)	経産牛400頭という規模でありながら、高い反収によって自給飼料を中心とした経営を実現している。また、1日8時間労働・週休2日で10名以上の雇用を導入しており、労働力あたりの経常所得が高い。更なる規模拡大は余裕でできると思われるが、週休3日を提案するという考え方に経営者としての資質を感じる。さらに、農場HACCP取得や新規就農者への支援活動については、発展性が大いに期待される。
畜産局長賞	福田正幸 (東北)	ワークライフバランスやタイムマネジメントといった考え方が、高い労働力生産性となっている。また、幅広い世代と触れあえるイベントは酪農の魅力を伝えたいという狙いがはっきりと感じられ、移動カフェは独自の取り組みで、今後の展開に期待がある。
	小澤雄太 (関東)	都府県酪農で経産牛70頭以上と飼養頭数が多いにもかかわらず、粗飼料自給率の高いことが特筆される。経産牛1頭当たりの経常所得や労働力あたりの経常所得といった生産性が高い。
	河野裕喜 (西日本)	既存設備の有効活用や自給飼料生産のための機械の共同購入により、経産牛1頭当たりにおける借入金残高、減価償却費、借入金償還残額が優れており、財務的に堅実な経営であることが評価される。今後は周辺で増加している耕作放棄地を活用した自給飼料の拡大に期待する。
	芳山誠 (中部)	従業員とのコミュニケーションを大切にす経営を行うことによって、経営者が外を回っていても作業が滞らない体制が築かれている。そうした基礎があるため、外に出て堆肥の販売促進を自分で行うことが可能。外に出て集めた情報を牧場経営に還元するという人と情報の循環が評価される。
	風間健太 (九州)	単味飼料を調合して生産性を維持し、分娩間隔が極めて短く、繁殖管理の徹底と次期乳期の生産性確保に努力しているなど、観察から始まるという基本を徹底した技術的な水準は高く評価される。経営管理においても、経営資金を三つに区分して別々の口座で管理し、猶予期間にも資金を積み立てて、借入金の返済に備え、計画通りあと5年で完済する予定であるだけでなく、運転資金を蓄えたうえで借りていた施設を購入。また、自分のことだけでなく新規就農希望者との交流を通じて地域貢献も行っていることは高く評価される。

酪農意見・体験発表

区分	氏名
全国酪青女委員長最優秀賞 全酪連会長最優秀賞	藤田幸子 (関東)
全国酪青女委員長最優秀賞 全酪連会長最優秀賞	山尾稔之 (西日本)、小林拓也 (中部)、隈部雅子 (九州)、 中居広哲 (東北)、佐藤幸枝 (北海道)

- 注) ① 酪農経営発表の農林水産大臣賞受賞者に (公社) 中央畜産会会長賞、日本放送協会会長賞が授与された。
 ② 酪農経営発表の発言者全員に全国酪農青年女性会議委員長賞、全国酪農業協同組合連合会会長賞が授与された。
 ③ 酪農・意見体験発表の最優秀受賞者に (一社) 全国酪農協会会長賞が授与された。
 ④ 酪農経営発表の風間健太氏、酪農・意見体験発表の隈部雅子氏に審査委員長特別賞が授与された。

